

題材	I 音楽で心をつなげよう			4月(3時間)
目標	リズムや旋律と曲想との関わりに気づき、自然で無理のない声で歌ったり友達と声やリズムを合わせて演奏したりする。			
評価 規準	(① 知・技)リズムや旋律と曲想との関わりに気づき、自然で無理のない声で歌っている。 (② 思・判・表)リズムや旋律の特徴に合った歌い方や、友達とのリズムのつなげ方について思いや意図をもっている。 (③ 主体的態度)友達と楽しく、声を合わせて歌ったりリズムに合わせて手拍子を打ったりしている。			
教材	『ハッピーソング』 松本雅隆 作詞 上野哲生 作曲 ハ長調 4分の4拍子 リズムでなかよくなろう			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	I	○『リズムでなかよくなろう』で手拍子を打ちながら遊んだり、リズム遊びをしたりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 拍にのってリズムをたたいたり、声を合わせて歌ったりしよう	○様々なリズムや組み合わせ方に気付けるように、新しいリズムの組み合わせ方をしている児童を紹介する機会を設定する。	◇4拍子の拍の流れに乗って、手拍子のつなげ方を工夫しながら、楽しく手拍子を打っている。 <表現①②③>
追 求 す る	I	○『ハッピーソング』を聴いたり歌ったりして、リズムや旋律の特徴に合った歌い方を考える。	○リズムや旋律の特徴に気付けるように、リズムを叩いたりリズムの特徴に合わせて体を動かしたりする機会を設定する。	◇ リズムや旋律との関わりを生かして歌うことについて発言したり、それらを生かして歌ったりしている。 <発言・表現②>
・ま と め す	I	○『ハッピーソング』のリズムや旋律に合った歌い方で声をそろえて歌う。	○声を合わせて歌う楽しさに気付けるように、自分たちの歌の録音を聴いたり、声を合わせて歌うポイントを考えたりする機会を設定する。	◇リズムや旋律の特徴や曲想の関わりに気づき、友達とともに歌うことの喜びを感じながら歌っている。 <表現①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：旋律、リズム、拍				

題材	2 音の高さをかんじとろう		4・5月（6時間）	
目標	ハ長調の音階やト音記号、五線などについて理解し、音の高さを生かして歌ったり演奏したりする。			
評価 規準	(②知・技) ハ長調の音階やト音記号、五線を理解して、正しい音程で演奏をしたり、歌ったりしている。 (②思・判・表) 音の高さに合わせて身体表現をし、音の高さを生かして歌ったり演奏したりすることについて思いや意図をもっている。 (③主体的態度) ハ長調の音階やト音記号、五線に関心をもって、音の高さを感じ取りながら歌ったり演奏したりすることに取り組もうとしている。			
教材	ドレミで歌おう 小原光一 作詞 作曲者不明 ハ長調 4分の4拍子 春の小川 文部省唱歌 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 ハ長調 4分の4拍子 海風きって 高木あきこ 作詞 石桁冬樹 作曲 ハ長調 4分の4拍子			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『ドレミで歌おう』の階名唱をしたり身体表現をしたりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 音の高さを感じ取りながら歌ったり演奏したりしよう	○ハ長調の音階や音の高さに関心をもって、階名唱や視唱に取り組めるように、音の高さに合わせて手の高さを変える身体表現をする機会を設定する。	◇ハ長調の旋律や音の高さに関心をもって、階名唱や身体表現に取り組もうとしている。 <表現③>
追求する	1	○『ドレミで歌おう』の音の高さを確かめながら、鍵盤ハーモニカで歌ったり演奏したりする。	○音の高さに合わせて指くぐりと指またぎの奏法で演奏することができるように、ロイロノートで動画を配布して見ながら吹くことができるようにする。	◇音の高さと五線との関わりに気付き、正しい音程に合わせて歌ったり演奏したりしている。 <表現①>
	1	○『春の小川』を歌ったり、音の高さに合わせて体を動かしたりする。	○同じ旋律の動きと違う旋律の動きに気付き、音の高さに合わせて歌ったり体を動かしたりできるように、楽譜を色分けする機会を設定する。	◇音の高さと五線との関わりに気付き、正しい音程に合わせて歌ったり体を動かしたりしている。 <表現①>
	1	○『海風きって』を歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりする。	○ハ長調の音階やト音記号、五線を理解して音の高さに合わせて演奏することができるように、楽譜に階名を記述する機会を設定する。	◇正しい音の高さで記譜し、歌ったり演奏したりしようとしている。 <表現①>
まとめる・生かす	1	○『海風きって』の音の高さに合った歌い方や演奏の仕方を考えて演奏する。	○音の高さや曲想に合った歌い方ができるように、歌と鍵盤ハーモニカの担当に分かれて聴きあう機会を設定する。	◇音の高さや曲想に合った歌い方や演奏の仕方について発言したり記述したりし、それらを生かして歌ったり演奏したりしている。 <表現②>
	1	○『ドレミで歌おう』のテストをする。	○ハ長調の音階やト音記号、五線を理解することができるように、テストを待っている間に読譜や記譜の問題を解く機会を設定する。	◇正しい音程や奏法で鍵盤ハーモニカを演奏している。 <表現①>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：音階、旋律、音色、拍 ・題材のつながり：2年「ドレミであそぼう」				

題材	こころのうた（茶つき）	5月（1時間）
目標	歌詞から情景を思い浮かべ、曲想を生かしながら歌う。	
評価 規準	(①知・技) 曲想から情景を思い浮かべて歌っている。 (②思・判・表) 曲想に合う発声の仕方や音色について思いや意図をもっている。 (③主体的態度) 曲想から情景を思い浮かべ、楽しく友達と声を合わせて歌おうとしている。	
○『茶つき』の情景を思い浮かべながら歌う。		
【備考】 ・八十八夜に合わせて歌えるとよい。（5月1日頃） ・ペアで、手拍子をしながらかうてもよい。		

題材	3 こんにちはリコーダー		5・6月(6時間)	
目標	リコーダーの運指やタンギング等の基本的な奏法を身に付けて、きれいな音色で演奏する。			
評価 規準	(①知・技)リコーダーの音色や奏法と曲想との関係に気付き、リコーダーの基本的な演奏の仕方演奏している。 (②思・判・表)リコーダーの運指やタンギングの仕方、息の使い方を工夫して演奏することについて思いや意図をもっている。 (③主体的態度)リコーダーの音色に関心を持ち、楽しく演奏しようとしている。			
教材	ピタゴラスイッチ【鑑】 栗原正己 作曲 小鳥のために【鑑】 作曲者不明 きれいなソラシ 吉澤実 作詞・作曲 ト長調 4分の4拍子 坂道 鹿谷美緒子 作曲 ハ長調 4分の2拍子 アチャ パチャ ノチャ ラップランド民謡/三宅悠太 編曲 ト長調 4分の4拍子			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」				
であう	1	○『ピタゴラスイッチ』や『小鳥のために』を聴いたり、リコーダーを簡単に吹いてみたりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて リコーダーをきれいな音で演奏しよう	○リコーダーの音色の特徴に気付けるように、複数の曲を比較鑑賞する時間を設定する。	◇リコーダーの音色に関心を持ち、リコーダーの音色について発言したり記述したりしている。 <発言・表現③>
追求する	1	○『きれいなソラシ』を聴いたり、シ・ラ・ソの運指やタンギングの仕方についての動画を見たり吹いたりする。	○シ・ラ・ソの運指やタンギングの奏法を身に付けられるように、運指表と舌の位置を表した写真や図をロイロノートで配付する。	◇正しい運指やタンギングで演奏することについて思いや意図をもって発言したり記述したりしている。<発言②>
	1	○『きれいなソラシ』や、シ・ラ・ソをタンギングに気を付けて吹く。	○タンギングに気を付けて演奏することができるように、『笛星人』でタンギングを意識しながら演奏する機会を設定する。	◇正しい運指やタンギングで演奏しようとしている。 <表現①②③>
	1	○『坂道』や『雨上がり』を聴いたり演奏したりする。	○リコーダーに吹き込む息のスピードや強さを変えると音色が変化することに気付けるように、息のスピードや強さを変えた演奏を例示する。	◇リコーダーに吹き込む息のスピードや強さを工夫して演奏することについて思いや意図を持ち、発言したり記述したりしている。 <表現②>
	1	○『坂道』や『雨上がり』を音色に気を付けて、リコーダーで吹く。	○きれいな音色で演奏することができるように、友達とペアになって音を聴き合う機会を設定する。	◇リコーダーのきれいな音色や息の使い方に気付き、それらに気を付けて演奏している。 <表現②>
生かす	1	○リコーダーの『きれいなソラシ』をテストする。	○きれいな音色に気付くことができるように、テストでタンギングやきれいな音色で演奏することができる子を紹介する機会を設定する。	◇きれいな音色やタンギングで演奏しようとしている。 <表現②>
【備考】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏CD, 拡大譜, リコーダー運指表を準備する。補助教材として、『笛星人』というリコーダー練習曲集に『笛星人』『さくら笛』『猫吹いちゃった』等がある。 ・ H30年度のリコーダー講習会は、5月第4週に実施した。R02年度はDVD教材を視聴し、リコーダー講習会は実施していない。 ・ 学習する音楽を形づくっている要素: 音色, リズム, 旋律 			

題材	4 はくによって りずむであそぼう			6・7月(5時間)
目標	旋律やリズムの特徴を感じ取りながら、拍によって音楽表現をする。			
評価 規準	(①知・技)旋律やリズムの特徴を理解し、拍によって歌ったり、演奏したり、まとまりのあるリズムをつくったりしている。 (②思・判・表)旋律やリズムの特徴を生かして演奏の仕方やリズムの組合せを工夫することについて思いや意図をもっている。 (③主体的態度)旋律やリズムの特徴に関心を持ち、拍によって歌ったり演奏したり、リズムをつくったりする活動に進んで取り組もうとしている。			
教材	ゆかいな木きん 小林純一 作詞 作曲者不明/原由多加 編曲 ハ長調 4分の2拍子 あの雲のように 芙蓉明子 作詞 作曲者不明 飯沼信義 編曲 ト長調 4分の3拍子 手拍子でリズム			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『ゆかいな木きん』を聴いたり歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — いろいろな拍によってリズムを感じ取って演奏しよう	○拍の特徴を感じ取れるように、曲の拍やリズムに合わせて体を動かす時間を設定する。	◇弾む感じの曲想を感じ取り、拍やリズムの特徴について発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
追求する	1	○『ゆかいな木きん』の主旋律や副旋律を演奏する。	○各パートのリズムの違いに気付けるように、旋律に合わせて手拍子でリズムを打つ機会を設定する。	◇各パートのリズムの違いを生かして演奏することに思いや意図を持ち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『ゆかいな木きん』の合奏をする。	○拍によって合奏をできるように、低音楽器や伴奏の音など音を合わせる際の基準となるパートを例示する。	◇ 旋律やリズムの特徴に気付き、周りの音を聴きながら、拍によって合奏をしている。 <表現①>
すまとめる・生か	1	○『あの雲のように』で、3拍子によって歌う。	○3拍子の特徴に気付くことができるように、『ゆかいな木きん』と比較する機会を設定する。	◇3拍子の特徴に気付き、特徴を生かして歌うことに思いや意図を持ち、発言したり記述したりしている。 <表現②>
	1	○『手拍子でリズム』で、まとまりのあるリズムをつくる。	○反復や変化を生かしてリズムを工夫できるように、つなぎ方や重ね方の例を提示する。	◇ 反復や変化を生かし、リズムを工夫しながら旋律をつくっている。 <表現①>
【備考】 ・学習する楽を形づくっている要素：拍，リズム，反復 ・音符，休符，記号や用語：4分の2拍子 ・題材のつながり：2年「ひょうしのちがいをみつけよう」				

題材	5 ちいきにつたわる音楽でつながろう			8・9月(8時間)
目標	お囃子の曲想と旋律の関わりに気づき、楽しみながらお囃子を演奏したり旋律をつくったりする。			
評価 規準	(①知・技)お囃子の曲想と旋律の関わりに気づき、お囃子に合わせて打楽器を演奏したり簡単な旋律をつくったりしている。 (②思・判・表)お囃子の面白さを見いだしながら聴いたり、お囃子の曲想と旋律の関わりを生かして演奏することについて思いや意図をもっている。 (③主体的態度)お囃子の面白さを感じ取り、進んでお囃子を演奏したり旋律をつくったりしようとしている。			
教材	祇園囃子【鑑】 京都府 ねぶた囃子【鑑】 青森県 神田囃子「投げ合い」【鑑】 東京都 ラドレの音でせんりつづくり			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	2	○『祇園囃子』『ねぶた囃子』『神田囃子』を聴き、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 祭り囃子に親しもう	○地域によるお囃子の違いに気付けるように、地域の違うお囃子を聴き比べた後、違いについて話し合う機会を設定する。	◇お囃子の面白さやよさを見だし、それらについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
追求する	1	○『神田囃子(投げ合い)』に合わせて締太鼓を演奏したり唱歌をロザさんだりする。	○曲に合わせて締太鼓を叩いたり唱歌を歌ったりできるように、太鼓と唱歌用の楽譜を用意する。	◇お囃子の面白さを楽しみながら、拍子に合わせて締太鼓を叩いている。 <表現①>
	2	○‘ラ・ド・レ’の音を使って、キーボードで一人一人て簡単なお囃子の旋律をつくる。	○お囃子をつくるための発想を得られるように、リズムに‘ラ・ド・レ’の音を自由に当てはめて旋律をつくって遊ぶ時間を設定する。	◇お囃子の感じを生かしながら旋律をつくることについて思いや意図をもち、発言したり記述したりしている。 <記述・表現②>
	2	○グループでリズムや音を工夫しながら、イメージに合うオリジナルお囃子の旋律づくりをする。	○お囃子の感じを生かして旋律をつくれるように、‘ラ・ド・レ’の音を当てはめるお囃子カードを用意する。	◇グループのイメージに合うように、オリジナルお囃子のリズムや音を変えている。 <記述・表現②>
・ま 生と かめ す	1	○グループごとにオリジナルお囃子を発表し合う。	○旋律づくりの楽しさを味わえるように、グループのオリジナルお囃子を友達と一緒に演奏した後、面白さについて話し合う機会を設定する。	◇お囃子の面白さを感じ取りながら演奏したり、友達のお囃子のよいところを伝えたりしている。 <表現・発言①②③>
【備考】				
・学習する音楽を形づくっている要素：音色、リズム、速度、呼びかけとこたえ ・題材のつながり：2年「日本のうたでつながろう」				

題材	こころのうた（うさぎ）	9月（1時間）
目標	日本の旋律のよさを味わいながら歌う。	
評価 規準	(①知・技) 曲想と日本の旋律を結び付け、情景を思い浮かべながら歌っている。 (②思・判・表) 日本の旋律のよさを味わい、旋律を生かして歌うことについて思いや意図をもっている。 (③主体的態度) 曲想と日本の旋律の関わりに興味・関心をもち、楽しみながら歌おうとしている。	
	○『うさぎ』を旋律のよさを感じ取りながら歌う。	
【備考】	・十五夜に合わせて歌えるとよい。（9月中旬）	

題材	6 せんりつのとくちょうをかんじとろう			9・10月(8時間)
目標	旋律の特徴を聴き取り、旋律に合った奏法で歌ったり演奏したりしている。			
評価規準	(②知・技)曲想と旋律の関わりに気付き、互いの歌声や楽器の音を聴き合い、音を合わせて演奏している。 (②思・判・表)曲想と旋律の関わりを感じ取り、旋律の特徴を生かして演奏することについて思いや意図をもったり、旋律の特徴の変化によって生まれる曲想の変化の面白さを味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)旋律や音の重なり合う響きに関心をもち、互いの音や旋律を聴き合いながら表現しようとしている。			
教材	とどけようこのゆめを 安西薫 作詞 長谷部匡俊 作曲 ト長調 4分の4拍子 メヌエット ベートーベン 作曲 ふじ山 文部省唱歌 巖谷小波 作詞 ハ長調 4分の4拍子			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『とどけようこのゆめを』を聴いたり、歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 旋律の特徴を見付けて歌ったり演奏したりしよう	○曲想と旋律の動きとの関係に気付けるように、手を旋律に合わせて上げたり下げたりする機会を設定する。	◇旋律の動きに関心をもち、旋律の特徴と曲想との関係に気付いて手を動かしたり、発言したりしている。 <表現・発言③>
追求する	1	○『とどけようこのゆめを』を歌い、旋律の特徴を見つける。	○旋律の特徴に気付けるように、曲想が変わるところを問いかけ音の高さに合わせて手を動かす機会を設定する。	◇旋律の動きと曲想の関わりに気付き、それを生かして歌うことについて思いや意図をもち、記述したり発言したりしている。 <発言・記述②>
	2	○『とどけようこのゆめを』のリコーダーを演奏する。	○旋律の特徴にあった音色で演奏することができるように、リコーダーの奏法について考える機会を設定する。	◇旋律の特徴に合う奏法で演奏することについて思いや意図をもち、記述したり発言したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『メヌエット』を聴いて、旋律の特徴を見付ける。	○旋律の動きを意識して聴くことができるように、図形楽譜を提示する。	◇旋律の特徴に気付き、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『メヌエット』の旋律の特徴を友達と伝え合う。	○旋律の特徴の変化によって曲想が変わる面白さに気付くことができるように、旋律の特徴をキーワードに記述する機会を設定する。	◇旋律と曲想との関わりについて理解し、記述したり発言したりしている。 <発言・記述②>
ま生とめかす	1	○『ふじ山』を聴いたり歌ったりして旋律の特徴を見付ける。	○旋律の特徴に気付けるように、旋律に合わせて手を動かしたり旋律をなぞったりする機会を設定する。	◇旋律の特徴に気付き、その特徴を生かして歌おうとしている。 <表現①>
	1	○『ふじ山』曲の山を意識して歌う。	○旋律の特徴を生かして歌うことができたことを実感することができるように、クラスの合唱を録音して聴く機会を設定する。	◇旋律の特徴を生かして、曲想にあった歌い方で歌っている。 <表現①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：旋律、フレーズ、音の重なり				

音楽科 3年

題材	7 センリつを重ねてあそぼう			11・12月(7時間)
目標	旋律や音の重なりを感じ取り、互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら演奏する。			
評価規準	(②知・技)曲想と音の重なりに関わりに気づき、互いの歌声や楽器の音を聴き合い、音を合わせて演奏している。 (②思・判・表)旋律の重なりを感じ取り、旋律を重ねて演奏することについて思いや意図をもったり、主旋律と副次的な旋律の重なりによって生まれる響きの美しさを味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)旋律の重なり方の違いに関心をもち、互いの旋律を聴き合いながら表現しようとしている。			
教材	「アルルの女」第1組曲から かね【鑑】 ビゼー 作曲 歌おう声高く 花岡恵 作詞 長谷部匡俊 作曲 へ長調 4分の3拍子 メリーさんのひつじ アメリカ民謡 へ長調 4分の4拍子			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『かね』を聴いたり、『歌おう声高く』を歌ったりして、学習のめあてをつかむ 学習のめあて センリつを重ねてえんそうしよう	○旋律の重なりを意識して聴けるように、主旋律だけの演奏と副次的な旋律が重なったときの違いを比較鑑賞する時間を設定する。	◇ 旋律の重なりに関心をもち、演奏から音が重なる美しさや旋律が重なるおもしろさを感じ取って、発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
追求する	1	○『歌おう声高く』を、互いの歌声に気を付けながら重ねて歌う。	○旋律を重ねるおもしろさに気付けるように、歌うグループと聴くグループに分かれて旋律の重なりを聴き合える場を設定する。	◇互いの歌声を重ねるおもしろさをに気付けて発言したり、楽しみながら歌ったりしている。 <表現①②③>
	2	○『メリーさんのひつじ』の主旋律や副旋律を、リコーダーで演奏する。	○互いの旋律の動きに気付けるように、全ての旋律を演奏したりロずさんだりする機会を設定する。	◇互いの旋律を重ねて演奏することについて思いや意図をもち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	2	○『メリーさんのひつじ』の主旋律と副次的な旋律を、互いの音に気を付けて、リコーダーで演奏する。	○それぞれの楽器の重なり的美しさを味わえるように、リコーダーの音を重ねて演奏する時間を設定する。	◇互いの旋律を聴きながら、楽器の基本的な奏法に気を付けて演奏している。 <表現①>
生かす	1	○『メリーさんのひつじ』テストをする。	○楽器による重なりのおもしろさを感じ取れるように、少人数で合奏し、互いに聴き合う場を設定する。	◇互いの旋律の重なった響きを聴きながら、音色に気を付けて、リコーダーを演奏している。 <表現①>
【備考】				
・学習する音楽を形づくっている要素：音の重なり、音色 ・題材のつながり：2年「みんなであわせたのしもう」				

音楽科 3年

題材	8 思いを表現に生かそう			1・2月（6時間）
目標	曲にこめられた思いが伝わるように、曲想と歌詞や強弱、音色との関わりを生かして表現している。			
評価 規準	(③ 知・技)曲想と歌詞や強弱、音色との関わりに気付き、互いの声を聴き合い、音を合わせて演奏している。 (② 思・判・表)曲想と歌詞や強弱、音色の関わりを生かした表現について思いや意図をもって歌っている。 (③ 主体的態度)今までの学習を生かして、思いが伝わるように友達と声を合わせて表現する活動に主体的に取り組んでいる。			
教材	学年選択合唱曲			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○『学年選択合唱曲』を聴いたり、歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 思いが伝わるように表現しよう	○思いが伝わるように歌いたいという意欲がもてるように、学習発表会で歌う曲の曲想や歌詞、自分の経験を基に伝えたい思いを考え、共有する時間を設定する。	◇曲想と歌詞の表す内容や強弱などとの関わりに気付き、それらを生かして表現したいという思いや意図をもち、主体的に歌ったり思いを伝え合ったりしている。 <表現・発言①②③>
追 求 す る	2	○『学年選択合唱曲』の歌詞から伝えたい思いを考えながら歌う。	○曲にこめられた思いを感じ取ることができるよう、歌詞を見ながら曲を聴く機会を設定する。	◇曲想と歌詞や強弱、音色との関わりに気付き、それらを生かして表現したいという思いや意図を発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	2	○『学年選択合唱曲』を学年で合唱する。	○保護者に向けて発表する意欲や、友達と声を合わせて表現する楽しさを実感することができるよう、学年音楽の時間を設定する。	◇友達と声を合わせて演奏する楽しさを感じて、進んで声を合わせて演奏しようとしている。 <表現③>
ま と め か す	1	○『学年選択合唱曲』を発表する。	○思いが伝わるように表現できるようになったことを実感することができるよう、保護者に向けて演奏を発表する機会を設定する。	◇曲想と歌詞や強弱、音色とのかかわりに気付き、それらを生かし、思いを込めて主体的に表現している。 <表現①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：強弱、音色、歌詞				

題材	9 いろいろな音のひびきに親しもう			1・2月(9時間)
目標	互いの楽器の音や副次的な旋律が重なる音の響きを聴きながら、きれいに音を合わせて合奏をする。			
評価 規準	(②知・技)楽器の音や旋律の重なる響きと音の重なりとの関わりを聴き取り、互いの楽器の音や旋律を聴きながら、拍を意識して演奏している。 (②思・判・表)楽器の音や響きを生かして友達と音を合わせて演奏する方法を考えたり、工夫して演奏したりしている。 (③主体的態度)楽器の音や旋律の重なる響きに関心をもち、友達と音を合わせて演奏する活動に楽しく取り組んでいる。			
教材	トランペットふきの休日【鑑】 アンダソン 作曲 よろこびのうた【鑑】 ベートーベン作曲 パフ 芙龍明子 作詞 ピーターヤール・レナードリプロン 作曲/浦田健次郎 編曲 ハ長調 4分の4拍子			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『トランペットふきの休日』と『よろこびのうた』を楽器の音の響きに気を付けながら聴く。	○トランペットとホルンの響きの違いや重なり合う響きに関心をもち、曲想の違う曲を比較鑑賞する活動を設定する。	◇トランペットとホルンの音色の違いや重なり合う音の響きに関心をもち、曲想と音色や響きとの関わりについて発言をしたり、記述したりしている。 <発言・記述①②③>
	1	○『パフ』を歌ったり、聴いたりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて きれいに音を重ねて合奏しよう	○楽器の重なり方による、曲想の違いに気付けるように、リコーダー二重奏と合奏の比較鑑賞をする時間を設定する。	◇複数の楽器や旋律が重なる合奏に関心をもち、表したい合奏のイメージについて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述③>
追求する	1	○『パフ』のリコーダー、鉄琴、キーボードの旋律を歌ったり、リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏したりする。	○正しいリズムで演奏できるように、拍に合わせて階名唱をする時間を設定する。	◇各楽器の旋律の違いに気付き、リコーダーや鍵盤ハーモニカで、正しいリズムで演奏している。 <表現①>
	1	○『パフ』のリコーダー、鉄琴、キーボードの旋律を、各楽器で演奏する。	○リコーダーや鉄琴、キーボードがそれぞれ拍に合わせて演奏できるように、同じ楽器の中で演奏する人と、拍打ちをしながら階名唱をする人に分かれて演奏する場を設定する。	◇リコーダーや鉄琴、キーボードで、拍に合わせて正しいリズムで演奏している。 <表現①>
	1	○『パフ』の自分の担当する楽器を使い、少人数で合奏をする。	○互いの楽器の音や旋律の響きを聴いて、演奏の仕方を試しながら工夫できるように、各楽器が入った少人数のグループを編成する。	◇楽器の音や旋律の重なる響きを聴いて、拍を意識したり低音の旋律に合わせてたり演奏の仕方を試しながら、工夫して演奏している。 <表現・記述②>
	1	○『パフ』を全員で、拍を意識し、楽器の音や旋律の重なる響きを聴きながら、合奏をする。	○全員で音を合わせて演奏できるように、自分たちの演奏を録音したものを聴いて、演奏の仕方について話し合い、試奏する時間を設定する。	◇楽器の音や旋律の響きを聴きながら音を合わせて演奏する方法を考えて発言したり、演奏に生かしたりしている。 <表現・発言②>
生 か す ま と め る	1	○『パフ』を互いの楽器の音や旋律の重なる響きを聴き合いながら、合奏をする。	○きれいに音を合わせて演奏するための方法を想起して合奏や記述ができるように、方法をまとめた模造紙や学習プリントを見返す時間を設定する。	◇拍を意識し、互いの音や副次的な旋律の重なる響きを聴きながら楽しく音を合わせて演奏している。 <表現①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素：音色、音の重なり、拍、反復				

